

日 時：2019 年 9 月 11 日（水）13:30～15:30

場 所：尚絅学院大学内応接室 I、動物実験室

出席者：本学動物実験倫理委員 3 名、外部検証委員 1 名、事務担当 1 名

内容

1. 2014 年 8 月の外部検証における指摘事項に対する対応について

①書類名称の不一致（不統一）の指摘について

- ・指摘された書類名称の不一致箇所を訂正し、改訂した。

②温湿度管理について

- ・温度については、良好に制御できている。湿度については、夏季と冬季で変動幅があり、今後の課題としている。

③医療廃棄物と実験動物の屠体処理方法について

- ・医療廃棄物の回収処理および屠体処理は、処理業者に依頼していることを説明した。

④実地視察で指摘された改善点に対する対応について

- ・動物実験室および飼育室の出入り口に 60cm 高のネズミ返しを設置した。
- ・「緊急時対応マニュアル」と「緊急時連絡体制」を整備して、「動物実験施設利用の手引き」と共に実験室内に常備した。そして、救急箱の設置場所と共に、設置場所が実験施設利用者にわかるように表示をした。
- ・救急箱の医薬品は使用期限を管理し、2019 年 2 月に入れ替えた。
- ・アナフィラキシーショックに対する注意喚起と負傷時の緊急対処方法（保健センターの内線番号、救急車の要請など）を掲示した。
- ・救急車要請ができるように、実験室の電話を外線通話できるようにした。
- ・動物実験施設入口（階段と前室の境）に防塵フィルターをつけたドアを設置した。

2. 実験動物に関する自己点検・評価報告書（以下、報告書）（2017 年度）、報告書（2018 年度）と関係資料の検証

① 微生物検査実施の頻度に関して、モニター動物の微生物検査回数について指摘された。

② 動物実験室について、実験動物の解剖など、一連の実験を 5 階の動物実験施設内で完結できているのか説明を求められた。

③ 動物倫理に関する教育について、どのような方法で学生に教育しているのか説明を求められた。

④ 遺伝子組み換え動物の飼育と実験について、今後、実験の計画はあるのか。また、その体制はどのような状況であるのか説明を求められた。

⑤ 麻酔処置について、麻酔はどのような処置を用いているか説明を求められた。

⑥ 環境および衛生管理について、説明を求められた。（温湿度、ケージの洗浄方法および頻度、代謝ケージの置き場所等）

3. 動物実験室を実施視察

※動物実験施設に案内し、入室方法を説明した後、動物実験室と動物飼育室案内。

① 2014 年の外部検証における指摘事項の対応の確認。

- ・「ネズミ返し」の設置、階段と前室の境に新設したドア。
- ・「動物実験施設利用の手引」および「緊急時対応マニュアル」の常備。

- ・ 緊急処置を要する動物に噛まれたことによるアナフィラキシーショックに対する対処方法、連絡先を一目できるようなポスターの掲示。
 - ・ 救急箱の設置と設置場所を示す掲示。
- ② 動物飼育室内の視察
- ・ ブランケットケージの使用状況について視察し、金網のメッシュの使い分けは評価できる。とのコメント評価を頂いた。
 - ・ 自動洗浄ラックの排水溝を見て、糞受け籠が排水溝の穴をふさいでいる形にセットされているので、現状で PA1 の拡散防止措置に充分適応でき、遺伝子組み換え動物の導入も可能であると思う。但し、遺伝子組み換え動物を導入する際は、「遺伝子組み換え動物飼育中」の掲示が必須となると指導を受けた。
- ③ 動物実験室（飼育室の前室）の視察
- ・ イソフルレン麻酔器の排気処理装置を確認した。
 - ・ この実験室で解剖を実施するなら、動物の逸走防止対策として、流しの排水口にめくら栓、または、メッシュのごみ受け籠をセットした方がよい。排水口の逸走防止対策をとれば、PA1 レベルの拡散防止措置に適応するだろうとの示唆を頂いた。
- ④ 生化学実験Ⅰで使用している実験室の視察（食物実験室Ⅰ）
- ・ 解剖中は出入り口にネズミ返しを設置していることを確認。
 - ・ 流しの排水口にゴミ受けが設置されているため、動物の逸走防止になっていることを確認。
 - ・ ストーンテーブルの下などに置いてある物が多いので、動物が逸走したときの捕獲が困難であるとの指摘を受けた。

4. 総評

【評価できる点】

- ・ 2014 年の外部検証における指摘事項に対して、適切な改善がなされている。
- ・ ブランケットケージの床網メッシュが 2 種類用意され、動物の大きさに適応したものを使用している。
- ・ 動物実験施設内（飼育室、実験室、および前室）は整理整頓が行き届き、衛生管理も十分に実施されている。

【今後の改善・検討事項】

- ・ 飼育室の前室（実験室）で解剖する際の動物の逸走対策として、流しの排水口にゴミ受けのメッシュの籠をつける。
- ・ 微生物検査複数回実施を検討する。
- ・ 感染事故が起こった時の対策、対処法の順番をあらかじめ決めておく。
- ・ 残り餌を回収するために、自動洗浄を停止してバットを受け皿にする際、新聞紙をバットに敷いているとのことだが、新聞紙は殺菌処理がされていない。最近、吸水性のあるペットシートが意外に安価に手に入る。新聞紙よりも衛生的であるので、代替可能か検討する。

概ね良好な管理体制で問題ないと判断するとの講評を頂いた。

以上

なお、上記の指摘を受けた点については、迅速に対応し、必要な修正・設置を完了している。

2020 年 3 月 2 日